

三井のリフォーム住生活研究所所長 西田恭子

## 「トカイナカ」暮らしとは？

セミナーの講師をしている私は、いろいろな方から家に関しての各種ご相談を受ける。そんな中で団塊世代のライフスタイルとして、その時代性と夫婦のそれぞれの思いを感じる話があったのでご紹介したい。



も、いずれ湘南に引っ越してくるのではと私は内心思っています」と語られた。

「トカイナカ」暮らしとは、別荘やセカンドハウスを持つとは違う。どちらも「生活の場」であるところが特長的だ。

「今年から自宅と湘南の、世間で言われ始めている『トカイナカ』（都会&田舎）暮らしを实行しようと思っっています。最終章の生活をどうするかは、地方から出てきた者にとって常に頭をよぎるものです」  
この方は上京して早四〇年。自分でも、なぜそこまで故郷を引きずるのかわからないまま、望郷の思いを捨てられないようだ。奥様は東京育ちで、人生で一度も東京を離れたことがなく、ご主人の田舎で暮らすことなど考えも及ばない。それは東京で生まれ育った子供たちもわかりで、ましてやご本人もまだまだ仕事からみて、東京を離れることは難しい状況だ。

出した結論は、「仕事と都会暮らしのベースをマンションで、そして小さくても湘南の戸建てで暮らす」

ということであった。なぜ湘南なのか？ とお聞きすると、「ぶらぶら歩いて行く海岸に出ることができ、私の育った町とよく似ている。そしてお魚がおいしい！ さらにここからでも都心の仕事場に通える。の三点からです」。郷里に帰るわけにもいかず、悶々としていたご主人は本当にうれしらしく、二言目には「昔任んでいたところに感じが似ている」とつぶやいていた。

東京の職場をベースに考えたときに、湘南は車でも電車でも一時間半程で行け、同時並行の生活が可能だ。  
「私にとっては湘南がベース、湘南は遠いと思っっている妻にとっては都内がベースで、双方の納得合意点を見つけられたということでしょうか。もしかすると同郷同士で結婚した妹夫婦

リタイヤ後の暮らしには、子供の近くに住む選択肢もあるが、なかなか自分がそうであったように、そうはうまくいかないものだ。二人三脚できた御夫婦も年をとると、なぜか結婚前の自分がよみがえってきて昔の暮らしがなつかしくなるもの。親父にそっくりになってきた自分に、驚いている方も多いのではないだろうか。この話は「夫婦のそれぞれの思いを確保」する一例になると思い、許可を得て掲載させていただいた。

この方は海側であったが、山側に思いをはせている方もいるのではないだろうか。さてさて今後このご夫婦の二つの家での暮らし方が、どんな風に展開していくのか？ なんだか次の結果報告を聞くのが、わくわくするほど楽しみだ。



西田恭子氏のプロフィール 一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手がけ二五年。昨年より新設した「三井のリフォーム住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。文化女子大学非常勤講師。日本女子大学住居学科卒。